

私の 3 冊

高倉 朋和

たかくら・ともかず 医師：22 年目

順天堂大学大学院医学研究科リハビリテーション医学，順天堂東京江東高齢者医療センターリハビリテーション科

大学病院での診療・研究・教育に従事しています。神経症候学に関する知識はリハビリテーション診断・治療を進めるうえで基礎となるものであり重要です。日頃何気なく使われている疾患・症候群名などの用語なのですが、その発見に至る歴史にはロマンがあり、こうした先人達の観察眼の鋭さ・リサーチマインドにはただただ敬服せざるを得ません。学生講義の際にも、医学史に触れながらリハビリテーション医学の面白さ・奥深さが伝わるよう心がけています。

後輩に薦める 2 冊



高次脳機能障害学 第3版

石合純夫 著

医歯薬出版 2022 年

高次脳機能障害を学ぶ際のまさにバイブルだと思います。医師のみならず神経心理学・高次脳機能障害の診療・研究にかかわる療法士・心理士などの皆様にもぜひお薦めしたい 1 冊です。10 年ぶりの改訂により、近年、新たに提唱されるようになった新しい神経ネットワークに関する知見なども数多く盛り込まれています。



BRAIN and NERVE 神経研究の進歩 Vol. 66 No11 November 2014

神経症候学は神経学の“魂”である

医学書院 2014 年

Jean-Martin Charcot, William Gowers, Joseph Babinski, Robert Wartenberg など、いずれも神経学や神経症候学を学ぶ際、誰もが必ず耳にしたことのある神経学の偉人達について人物像や業績がまとめられています。先人達の偉業に触れることで、普段行っている診察や手技のひとつひとつが、改めてより魅力的に感じられるのではないかと思います。

自分の 1 冊



Disturbances of the Mind

Douwe Draaisma 著 Barbara Fasting 翻訳

Cambridge University Press, 2009 年

著者はオランダ・グローニンゲン大学心理学史の教授で、記憶に関する著作が有名です。本書には Charles Bonnet, Sergei Korsakoff, Paul Broca, Alois Alzheimer, James Parkinson, Hans Asperger, Joseph Capgras など、その名を冠する精神神経疾患・神経症候群 (eponym) を発見した医学者にまつわるバイオグラフィが収められており、お気に入りの 1 冊です。神経学、神経科学、医学史にご興味のある方にお薦めしたい 1 冊です。